

令和6年度

全力アートで子ども中心のまちづくりワークショップ— 子ども×遊び×自由 —

【姫路日ノ本短期大学 ひのたん子ども全力アート（連携課：姫路市立美術館・子ども保育課・幼保連携政策課・学校指導課）】

研究の目的（背景・課題・意義）

本研究の目的は、子どもたちが創造的に遊べる「アートで遊ぶ場」を設けることである。本研究では教育現場における「造形遊び」の実践の困難さを補うために、本学等（授業時間外）でワークショップを開催し子どもたちの「造形遊び」を支援する場を設ける。同時に子育て支援に繋げたい。

研究内容・主な実施計画

- ワークショップの開催：本学等で年間5回を目標としており、画用紙・粘土・絵具・廃材等を材料として用いて行いたいと考えている。その参加者は各回約15人程度を目安とし、本学の学祭で行う際には、約30人前後の参加者を目標に開催する。
- 「造形遊び」のワークショップを開催するにあたり、本学の学生をワークショップの運営に携わらせる。このことにより保育者を志す学生が主体的に「造形遊び」の方法を学び、この経験や学びえた知識をもって教員としての資質の向上を図りたいと考える。それには「造形遊び」（アート活動の）ワークショップの学びの場として、姫路市美術館と連携したいと考える。姫路市立美術館は、ワークショップを通してクリエイティブな学習体験を提供しており、「造形遊び」の方法論を学ぶ最適な機会である。
- 「造形遊び」のワークショップの方法論を学ぶための講習会及びワークショップを開催する。研究者と実践者が交流する機会を我々が提供する。

子どもと「造形遊び」（アート）を中心としたまちづくりのイメージ図

